

令和7年度
学校関係者評価報告書

令和8年6月
獨協医科大学附属看護専門学校

I. 領域別評価

1. 教育理念・目的・期待する卒業生像	教育理念に基づいた患者や患者背景にも目を向けられるよう倫理観を備えた看護師の育成に力を入れていることが伺える。現在の高度化する医療に対応する知識・技術の教育のみでなく社会人として協働できる人材の育成に取り組んでいる。また、放送大学と連携し学士の取得が可能となったことは、学生のキャリアアップへの選択肢が広がったので、今後多くの学生がこの制度を活用できるよう支援していただきたい。
2. 学校運営	運営方針や組織運営等が規定に基づき適切に運営されている。教員の組織体制の整備において、教員間の協力体制を強化するための方法を具体的に提示し実行して欲しい。今後は課題に揚げているように多彩な情報システムを効果的に活用し業務の改善・向上に取り組んでいただきたい。
3. 教育活動	教育ラダーに取り組み教員の質の向上への努力がみられる。国家試験合格のための知識・技術は大切であるが、人間性の教育にも力を入れていることがとても良い。シラバスから必修単位、授業科目が明確化されており、目標に向けた学習ができている。卒後アンケートや就職先へのニーズ調査結果を看護基礎教育に反映することで、卒業生の就業継続にも繋がるのではないか。
4. 学修成果	国家試験合格 100%を目指し個別指導も徹底しているので安心であるが、学習進度がわかるよう確認を強化していく必要がある。今年度の国家試験合格率は、97.1%と全国平均を上回る結果であり、国家試験対策プロジェクトは効果的に活動されている。100%合格を達成できるよう引き続き取り組んでいただきたい。また、留学生を受け入れる体制を評価するのであれば検討するのではなく体制づくりが必要ではないか。
5. 学生支援	在学生卒業生が相談しやすい環境となっており、今後も維持していただきたい。キャリアガイダンスは目標ややりがいを見出すことができるので、専門家と対話する機会を増やすとよい。退学率の低減が目標であるが、入学定員を減員したことで、学生個々に合わせた細やかな対応ができ、中途退学をなくし全員が看護師となるようご指導願いたい。看護師を活かした進路決定ができている。離職率も上がっているため、学生のうちから将来像を見据えた指導が必要である。
6. 教育環境	タブレットを使用した授業等が主体となっている。どの分野でも扱う能力が必要と考えられ、さらにIT教育を発展させてほしい。図書館が完成し学習環境は整っていると思うが、学校の老朽化があるため、授業や演習が効率的に行えるよう環境整備をしてほしい。感染対策について、実習施設とコンタクトをとりながらしっかり指導している。食品自販機の設置は、食生活支援とは言難く栄養バランスを考えた食品選択

	ができるように支援したほうがよい。
7. 学生の募集と受入れ	学生の声が多く入ったスクールガイドになっており、強みがよくわかるようになっている。看護大学への進路希望が増えているが、専門学校での集中した学習の良さが情報提供できるとよい。また、SNSを活用してのオープンキャンパスの発信は効果的である。
8. 財務	適切な評価がされており、教職員全員が経費削減に努めている。特に問題はない。
9. 法令等の遵守	学校ホームページで学校概要・入試内容、自己点検・評価を公表している。また、個人情報保護規定に則り、引き続き適切な管理に取り組んでいただきたい。
10. 社会貢献・地域貢献	在校生卒業生から地域医療を支えるリーダー校としての自覚、責任感の強さを感じる。地域交流を図り、多職種連携の機会がもてるようボランティア活動を増やしていくことで、地域連携にも繋がり、学校の魅力になると思われる。また、学生の段階で国際交流することは、将来に大きく影響する機会であると考えるので、大学を参考にしながらそのような環境を提供していただきたい。

II. 総括

適切に学校運営がなされており、教育理念・教育目標に基づいた看護師を育成するため、教育活動や学生支援に取り組んでいる。看護師国家試験合格 100%を目指し、様々な対策を講じて全教職員が努力している。地域交流、ボランティア活動への参加推進を図ることにより、多様性を尊重し地域社会に貢献できる看護師の育成に期待する。